



聞こえにくい子を指導する方に知って欲しいこと

**基礎コース**

長崎県立ろう学校  
 自立活動部 地域支援班  
 2021.5 vol.10



聴覚に障害のある子を指導するときに初めに行う実態把握

聞こえにくい子どもの指導を行う前に、実態把握を行う必要があります。どのような点に注目して観察していくと良いのでしょうか？

「聞こえにくい」と次のようなことが難しいと考えられます。

- 周囲の状況が正確に把握できない。
  - 相手の言うことが正確に聞きとれない。
  - 不明瞭な発音になりがちである。
  - 周囲の会話を聴いて、自然に音声言語(日本語)を習得できない。
  - 一人でいることが多かったり、友達と問題を起こしたりする。
  - 聞こえにくいことに対し、自ら支援を求めない。
- などなど



聞こえ方は人それぞれ異なるので、すべてが当てはまるわけではありません。聞こえにくさから、そのほかの課題に発展してしまうことも多いのです。そこで、次のような点に注目して課題がないか観察してみましょう。

- |           |                                |
|-----------|--------------------------------|
| 1. 『聞く力』  | 聞き取りにくい音や場面はないか。               |
| 2. 『発音』   | 不明瞭な発音はないか、どんな音が発音しづらいか。       |
| 3. 『言語』   | 生活の中で使う言葉、学習で使う言葉を知っているか。使えるか。 |
| 4. 『人間関係』 | 周りの人との接し方に課題はないか。              |
| 5. 『障害認識』 | 自分の聞こえをどのように認識しているか。           |

## 1. 聞く力 ～聞き取りにくい音や場面はないか

- (1) **聴力を確認**しましょう。病院等で聴力検査を行うと、結果が「オーディオグラム」というグラフで表されます。「オーディオグラム」については『みみうち』のvol.6『フィッティング・マッピング』に記載があります。参考にしてください。「オーディオグラム」にスピーチバナナとも呼ばれる「可聴音域」を重ねてみます。この音域より上にある音が聞こえにくい音です。  
グラフが可聴音域と重なったり、下だったりしたとしても、聞こえる人と同じように聞こえるわけではありません。オーディオグラムは聞こえはじめの音を表しているのです。やっと音が鳴っていることが分かる程度の認識です。聞き取りにくい音があるので、日ごろから大きくはっきりと話すことの大切さが分かると思います。
- (2) **補聴器・人工内耳の取り扱い**はできているでしょうか。自身の聞こえに応じた補聴器や人工内耳を装着している場合、自分で電池(充電機)の管理ができているか、寝る前に乾燥機にかけたり汚れたとききれいに掃除したりできているか確認しましょう。手入れのチェック表で確認すると、本人も分かりやすいです。  
補聴器・人工内耳は自分の聞こえを補う機器です。壊れたままにしていたりすることなく、大切に扱い管理することができるように指導につなげましょう。
- (3) **会話を構成する音の聞き取り**を確認しましょう。
- ① **言葉を構成する音の数**が分かるか確認しましょう。「りんご」という言葉は、言葉を構成する3つの音から成ります。「りんご」と聴きながら音にあわせて3回拍手ができれば、音の数を捉えることができていることとなります。言葉を構成する音の数があいまいだと、正確に言葉を覚えることも難しいです。
  - ② **それぞれの音が聞きとれるか、音のかたまりである単語、言葉のかたまりである文の聞き取り**ができているかも確認しましょう。音を聞き分けているのか、推測して何を言われているか判断しているかを観察してみましょう。一つ一つの音は聞き分けが難しくても、イントネーションやアクセントなどをヒントにして知っている言葉だと、推測できるようになります。発音や言語力にもつながるので、しっかりと実態を把握しましょう。

具体的に、会話の中でどのような音が聞き取りづらいかを知るためには、単音・語音了解度検査などを実施して、確認する方法もあります。【ろう学校にお問い合わせください。】

## 2. 発音 ～不明瞭な音は無いか、どんな音が発音しづらいか

聞こえにくい音は音の違いが判別しにくく、自分が発する音も聞き取りづらいです。音の違いが分からないと発音が難しく、明確な違いを指導する必要があります。まずは、日常生活の中で**どのように発音しているか**、発音が不明瞭な音は何か確認しましょう。

チェックするとき次の3つの点に注目してください。

- (1) 言葉を構成する**音の数**が合っているかを確認します。不明瞭な発音でも、構成する音の数と発音される音の数は合っているかをチェックしてください。
- (2) 「**アイウエオ**」の**母音**が発音できているかをチェックします。母音は日本語の発音の基礎となり、口の形ができると発音がはっきりします。不明瞭な発音でも、推測しやすくなります。指導することですぐに**ぶん**発音が聴きやすくなります。
- (3) **子音**のどの部分が苦手かを見ます。子音は舌や唇、息などの使い方によって発音します。それらの聞き分けができているのか、舌や唇が十分に使えているかを確認して、指導に生かしましょう。

単音や短い言葉を使って発音の明瞭度を確認する発音明瞭度検査などを実施して、確認する方法もあります。

## 3. 言語 ～生活で使う言葉と学習で使う言葉を知っているか、使えるか

日本語は「音声言語」なので、周りの人が話す言葉を聴いて、少しずつ言葉を覚え、自分で話すようになります。聞こえにくい場合、自然に日本語を聴いて言葉を覚えることが難しく、意識的に日本語を学習する必要があります。

日常生活で**年齢相応の言葉**を使っているか、**表現豊かに**話せるかどうかをチェックします。単語だけで話したり、助詞が抜けたりすることもあるので、何が苦手なのか確認してください。また、学習言語についても、何を問われているか理解できずに、適切な答えができないことがあります。問われている文を簡単な表現に変えて問うと答えられるかなど授業中の様子もチェックしてください。

読字力検査や読解力検査など語彙力や文章力を調べる検査もあります。

## 4. 人間関係 ～周りの人との接し方に課題はないか

日本語が乏しいと、**周囲の人と互いの意思疎通**がスムーズにできません。例えば、語彙の少なから聞き違いがあったり、意味が分からないためあいまいに返事をしたりすることで誤解を生むこともあります。また、聞こえないことで返事ができなかつたり、相手を振り向かせようと肩をたたいて知らせたところたたかれたと受け取られたりすることがあります。

**会話に加わることが難しく、一人でいることが多くなってしまう**こともあります。友達との関係がうまくいっているか、一人で過ごすことが多くないかもチェックしてください。

## 5. 障害認識 ～自分の聞こえをどのように認識しているか

自分の聞こえは他者と比べることがとても難しいものです。聞こえにくい場合、「聞こえなかった」のではなく、「言われなかった、教えてもらえなかった」と受け取ることに繋がります。あらかじめ話す人が分かると「話されていることが、聞こえない、聞こえにくい」と分かります。しかし、話している人を見ていなかったり、話している人が誰か分からなかつたりする状態では「話されなかった」ことになります。



自分の聞こえが他の人より「聞き取りづらい」、補聴器や人工内耳をはずしているときなど「聞き取りづらい場面がある」ことを理解できているかも大切なポイントです。**自分が聞き取りづらい状況があることが理解できないと、どのように工夫するか、支援してもらうかを考えることができません。**考えることができないと、周囲に理解を求めたり支援をお願いしたりすることができないのです。

また、何に対しても周囲が先回りして支援をしてしまうと、してもらうことが当たり前となり、自分で援助を求めないようになります。周囲の支援についても、**手助けしすぎていないか、できることまで周りがしてあげてしまっていないか、**チェックしましょう。

実態把握を行うことで、課題の原因がつかめ、指導に生かすことができます。これらの観察のポイントから、日ごろの言動を観察し、実態把握を試みてください。